

令和 3 年 5 月 23 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00101

研究課題名(和文) 西欧17世紀におけるデカルト新哲学の成立及び発展に関する文化史的研究

研究課題名(英文) Study on the Formation and Development of the New Cartesian Philosophy in 17th Century

研究代表者

香川 知晶 (Kagawa, Chiaki)

山梨大学・大学院総合研究部・医学研究員

研究者番号：70224342

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、海外研究者との文字通りの共同研究によって、17世紀後半の伝記作家アドリアン・バイエ(Adrien Baillet, 1649-1706)による浩瀚な全1064頁にわたる『デカルトの生涯(La vie de Monsieur Descartes)』全2巻(Paris, 1691)の日本語初の校訂完訳・注釈版を完成する成果をもたらした。これによりバイエによるデカルト伝の翻訳を中核としながら、デカルトのみならず、17世紀におけるヨーロッパ全体にわたる学問を取り巻く社会環境の実像解明の基礎資料が得られることとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

原著はその後散逸したデカルトのテキストを多く含んでいることもあって、現在に至るまでデカルト研究の重要な源泉となってきた。さらに本書はデカルトの伝記的な記述とともに、デカルトの思想内容を精密に描くとともに、人間関係や社会環境を細かく記述している点に大きな特色がある。その記述によって、いかにしてカルテジアニズムが生まれ、受容されていったのかが具体的に明らかにされている。これによりデカルトのみならず、17世紀におけるヨーロッパ全体にわたる学問を取り巻く社会環境の実像解明の基礎資料が提供されることになった。

研究成果の概要(英文)：Our study which was literally collaborative with foreign researchers brought about the result of completing the first complete Japanese translation and annotation version of the biography of Descartes written by Adrien Baillet in the latter half of the 17th century. This provided basic data for elucidating the real image of the social environment surrounding not only Descartes but also the entire European scholarship in the 17th century.

研究分野：西洋近世哲学史

キーワード：デカルトの生涯 バイエ カレテジアニズム 新哲学

1. 研究開始当初の背景

研究代表者香川と研究協力者の名古屋大学名誉教授・山田弘明は、2009年頃より『デカルト全書簡集』(以下『書簡集』と略記)の翻訳に参画し、2016年に全8巻の刊行を完了した。さらにデカルトの医学生理学関係の未邦訳文書を網羅した『デカルト医学論集』を2017年に上梓し、その姉妹編となる『デカルト数学・自然学論集』を2018年に刊行した。これら一連の作業を通じて、デカルトの著作、さらにはデカルト宛の書簡及び自然学関係の関連文書はすべて日本語に移されることになった。このデカルトの未邦訳文書の全訳プロジェクトでは、対象となった文書の性格もあって、とりわけデカルトを取り巻く歴史的コンテキストの理解が要求された。たとえば、デカルトの残した生理学や解剖学関係の文書を読み解くには、通常の医学史的な知識のみならず、それらの学問が当時の大学の内外で置かれていた状況を把握することが必要であった。こうして、デカルト全文書の翻訳の完了を受けて、17世紀哲学をめぐる歴史的コンテキストのいっそうの解明が課題として浮かび上がってきた。すなわち、17世紀当時の学問を取り巻く社会環境を解明することによって、近世哲学の意義を再考するという課題である。そのためこの問いをめぐって、バイエの『デカルトの生涯』の全訳を核とした新たな研究、すなわち本研究課題を構想することとなった。

2. 研究の目的

本研究は1691年にフランスで刊行された『デカルトの生涯』(前2巻、総計約1000頁)を注釈をほどこして全訳することによって、デカルト哲学の形成過程のみならず、17世紀前半における西洋社会の思想的・政治的状況を具体的に知るための基本資料を提供することを目的とする。『デカルトの生涯』デカルトの死後約40年を経た1691年に出た詳細なデカルトの評伝である。著者アドリアン・バイエ(1649-1706)はカトリックの司祭で、書誌学者として生涯、多くの緻密な評伝を書いたことで定評がある。とりわけ本書は出色である。たとえばデカルトについては、冬のドイツの炉部屋で靈感を受けて三つの夢を見たこと、エルベ川を渡るとき悪徳船頭に剣を抜いたこと、などはよく知られている。だが、バイエの特徴は伝記的な記述もさることながら、デカルトの書いたもの(著作、書簡、未刊の遺稿など)をすべて渉猟し、思想内容を精密に描くとともに、人間関係や社会環境への細かい記述がある点に認められる。それらの詳細な記述によって、いかにしてカルテジアニズムが生まれ、受容されていったのか具体的に明らかにされている。本書の全訳を通して、「新哲学」をめぐる学問と社会環境との相互関係がいかなるものであったかを詳細に辿ることができる。本研究課題が同書の全訳を核としたゆえんである。こうした本研究課題の学術的特色は、第一に、本研究によってデカルトの全文書の邦訳が出そろったことを受けて、デカルトを当時の文脈の中に置き戻して読むための17世紀の基本資料が整備されることである。これによって、デカルトの同時代人たちへのアクセスも容易になり、従来特にわが国の近世哲学史研究では不十分であった社会的背景の解明に新たな一歩がもたらされるはずである。

3. 研究の方法

本研究は邦訳とともに、現代における研究の成果を踏まえた詳細な注解を全体に施すことも柱としており、たんなる翻訳とは決定的に異なる。その注解作成にあたっては、すでにこれまでの『全書簡集』『医学論集』『数学・自然学論集』で密接な協力を得てきたフランスの研究者に加え、あらたに参加するオランダのデカルト研究者との情報交換を定期的に行い、その成果も取り入れる。それによって、本研究は海外研究者との共同研究の一步進んだ形を具体的に示すものなる。そのことで、日本では類の見ない貴重な情報を提供することのみにとどまらず、これまでのデカルトの伝記的研究の集大成し、欧州においても新たな知見をもたらすことになるであろう。なお、本研究は最終的に上記の研究代表者香川と研究協力者山田の2名の他、国内の小沢明也(東洋大学)・今井悠介(慶応大学)の2名及びフランスのアニー・ビトボル＝レスペリエス博士(パリ・デカルト研究センター)を研究協力者とし、総計5名の研究者チームによって遂行することとなった。

4. 研究成果

本研究の目的である『デカルトの生涯』の完訳及び注解は予定通りに終了し、令和3(2021)年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)交付の決定を受け、『完訳版 アドリアン・バイエ デカルトの生涯』全2巻として工作舎(東京)より2021年度内に刊行予定である。これにより上記の研究の目的で述べたようにデカルト哲学の形成過程のみならず、それが17世紀において「新哲学」として受容されていく当時の社会環境について具体的に知ることのできる基礎資料が提示されることになる。

学術の国際交流の成果として特筆すべきは、本書の企画がきっかけとなり、フランスにおいて本書の姉妹版というべき校訂新版が刊行されることである。仏語新版は本書の編者3名(ビトボル＝レスペリエス、山田、香川)がそのままの編者となるもので、フランス・パ

リのベル・レットル社から出版されることが決定しており、現時点でその 80%が出来あがっている。新型コロナ完成の影響でフランスでの図書館の利用に大幅な制約が課せられたために、最終的な文献的確認に若干の遅れが生じているものの、徐々に状況は改善しており、完全版に至るまでにさほどの時間を要しない見通しである。この校訂新版の刊行はフランスをはじめとして、国際的なデカルト哲学研究に対する大きな寄与となると思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 香川知晶	4. 巻 36
2. 論文標題 終末期医療のイメージ 歴史的観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医学哲学 医学倫理	6. 最初と最後の頁 85-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 香川知晶	4. 巻 2019
2. 論文標題 われわれはいかなる世界を望むのか フランス生命倫理法改正と保健医療民主	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代宗教	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 香川知晶
2. 発表標題 科学的生命観と人間の いのち
3. 学会等名 日本学術会議・学術フォーラム「ゲノム編集技術のヒト胚等への応用について考える」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 加藤泰史・小島毅(編)・香川知晶	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 448
3. 書名 尊厳と社会(上)	

1. 著者名 加藤泰史・小倉紀蔵・小島毅(編)・香川知晶	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法制大学出版局	5. 総ページ数 544
3. 書名 東アジアの尊厳概念	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------